

農地向け太陽光設備

ミツウロコと販売

ルネサンス・プロジェクト

酒類販売を手掛けるルネサンス・プロジェクト(福岡市、中村鉄哉社長)は月内にも、農地向け太陽光発電設備の全国販売を始める。ミツウロコグループホールディングスと提携し、同社のLPGAスを取り扱う約2000社の代理店網を活用する。全国で耕作放棄地が増えており、売電で収入を得ながら農業を手掛けるモデルを提案、需要を掘り起こす。

太陽光発電設備の設計

などはルネサンス・プロジェクトの農業生産法人、ルネサンスエコファーム(山口県防府市)が手掛ける。同生産法人は出力250キロワットの太陽光発電設備を農地で運用しており、そのノウハウを生かす。

畑などに立てた架台の上には太陽光パネルを設置する。設備の下でも栽培できるように、パネル間に隙間をもうけたり、角度を付けたりして太陽光ができるだけ地面に届く

ようにする。レタスや水菜、ハーブ類などは太陽光設備の下でも育てやすいという。エコファームは農家に栽培法もアドバイスする。

出力250キロワットで総面積2500平方メートルの発電設備の場合、価格は8000万円程度になる見通し。売電収入で投資費用は10年程度で回収できるという。今後3年で、出力5万キロワットの販売を見込む。

ルネサンス・プロジェクト

クトは2006年の創業で、焼酎のプライベートブランド(PB)自主企画)商品の販売を手掛ける。13年9月期の売上高は約9億円。農業や新エネルギー関連などへ事業の多角化を進めている。ミツウロコは主力のLPGA事業を取り巻く競争環境が厳しさを増す中、太陽光発電設備の販売を新たな収益源に育てる考えだ。